ぶどう情報 No.6

令和５年６月２０日発行

ＪＡグリーン長野営農販売部・経済部
ＪＡグリーン長野ぶどう部会

◆当面する重点作業

1. 生育（開花）のバラツキが大きい状況です。
今後、摘粒・摘房作業で良質な房を残し、摘粒作業が遅れないように計画的に進める。
2. 降雨が続く場合は、散布間隔を１０日以上空けないように晴れ間を見ながら散布する。
黒とう病、べと病が発生した場合は、被害房・葉は切除し肥料の袋等に入れ園外へ持ち出し処分する。
尚、べと病の発生源となる副梢及び遅れ花を適正に処理し新梢管理を徹底する。
3. **大房にならないように摘粒を正確に実施し、着房数の徹底も行って下さい。**
ナガノパープルは裂果防止、シャインマスカットは糖度向上、クイーンニーナは着色向上のため徹底する。
4. 棚の明るさを確保する。特に良果房の立枝を下げた園は留意する。
シャインマスカットは明るすぎて房が黄色くならないように副梢を利用する。
5. 降雨がない場合は定期的にかん水を行う。

◆第８回薬剤散布について

1．散布時期 … **袋掛け前**（前回散布１０日以内）
2．調 合 量・・・水１００ℓ 当り　※混用順に記載。　散布日　　月　　日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
スクレアフロアブル	５０mℓ	晩腐病・褐斑病	前日まで
レーバスフロアブル	５０mℓ	べと病	７日前まで

3．散 布 量 … １０ａ当り ⇒ ＳＳ・動噴＝２５０ ℓ
4．留意事項
①袋掛け前に必ず散布する（散布時期が早まっても可）
②前回より散布間隔が空けないように散布する。降雨が多い場合は１０日以上空けない。
③スリップス・カイガラムシが多い園では、コルト顆粒水和剤 3,000 倍（水 100ℓ当り 33ｇ・収穫前日・年３回以内）を加用散布してもよい。ただし、ブルームの溶脱に注意。
④巨峰を中心に、房の**汚れが目立つ時期**となる。散布量・細霧掛け・ノズルの点検・２度掛けの禁止などを徹底する。また、**展着剤は加用しない。**

◆特別散布について

1．散布時期 … 袋かけが遅れ、第８回薬剤散布より、１０日以上間隔が空く場合は実施する。
2．調 合 量・・・水１００ℓ 当り　※混用順に記載。　散布日　　月　　日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ライメイフロアブル	３３mℓ	べと病	14 日前まで
オンリーワンフロアブル	５０mℓ	晩腐病・さび病・灰色かび病	前日まで

3．散 布 量 … １０ａ当り ⇒ ＳＳ・動噴＝２５０ ℓ
4．留意事項
①袋かけが間に合っている場合は、第９回散布を実施する。
②晩腐病・サビ病の発生が心配される場合、又は冷蔵シャインマスカットを出荷する場合は必ず散布する。

③スリップスの発生が心配される園は、㊞スカウトフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50mℓ・収穫7日前・年3回以内）を加用散布しても良い。
④ライメイフロアブルに代えてランマンフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100mℓ・収穫14日前・年3回以内）でも良い。
⑤果粒の汚れ溶脱に充分注意する。

◆第９回薬剤散布について

１．散布時期 … **袋掛け後**　　散布日　　月　　日
２．調 合 量・・・水１００ℓ当り　※混用順に記載。　　散布日　　月　　日

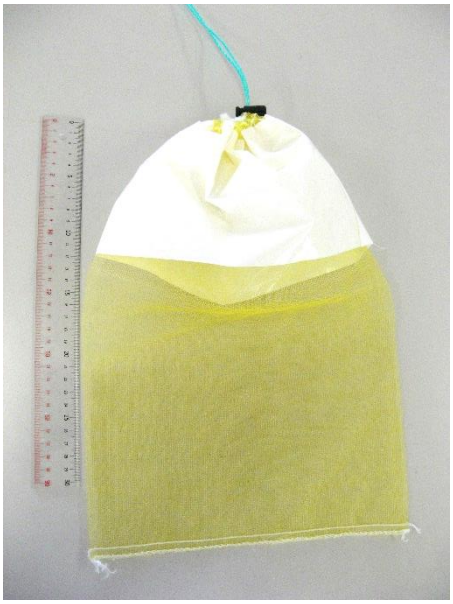
農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
エクシレルＳＥ	２０mℓ	スリップス類・ケムシ類	前日まで
ムッシュボルドーＤＦ	２００ｇ	べと病・さび病	ー
固着性展着剤K．Kステッカー	３３mℓ	※必ず最後に調合する	ー

４．散 布 量 … １０ａ当り ⇒ＳＳ・動噴＝３５０ℓ
５．留意事項
①袋かけ後は出来るだけ速やかに散布する。特に、べと病やスリップス防除のため棚上の新梢や２番房にも十分散布する。（場合により、袋かけ終了園ごとの散布も必要。）
②エクシレルＳＥなどの殺虫剤の混用は直前混用とする。
③ケムシ類の発生が多い場合はエクシレルＳＥを2,500倍（水100ℓ当り40mℓ）に代えて散布してもよい。
④ムッシュボルドーに代えて、ｉｃボルドー66Ｄの50倍（水100ℓ当り2kg）又は、4－4式ボルドー液（生石灰400ｇ、硫酸銅400ｇ）を使用しても良い。
⑤エクシレルＳＥに代えて、ダントツ水溶剤2,000倍（水100ℓ当り50ｇ）又は、モスピラン顆粒水溶剤2,000倍（水100ℓ当り50ｇ）を使用しても良い。
⑥固着性展着剤Ｋ．Ｋステッカーに代えて、固着性展着剤アビオンＥ2,000倍（水100 ℓ当り50 mℓ）を使用してもよい。ただし、最初に加用する。
⑦クビアカスカシバ・スカシバ類の発生地域は、**㊞パダンＳＧ水溶剤1,500**倍（水100ℓ当り66ｇ・収穫前21日前）を**特別散布**する。収穫２１日前までの使用となるので注意する。
散布の際は、手散布で主幹・主枝にたっぷり掛ける。
大粒種のみの登録ため、農薬の飛散に十分注意する。デラウェア等小粒種には登録無し。
⑧クビアカスカシバの虫フンが出始めるので、被害部に**ロビンフット**（スプレー式殺虫剤・収穫前日まで・5回以内）を散布してもよい。食入孔にノズルを差し込み噴射する（ノズルが詰まらないように噴射しながら差し込む方が良い）カミキリムシやコウモリガにも効果がある。
⑨カイガラムシの発生が心配される場合は、袋掛け後並びに7月中下旬までにモベントフロアブル2,000倍（水100 ℓ当り50 mℓ）を特別散布してもよい。

◆袋かけについて

１．果粉(ブルーム)の着生を良くするため、早目に袋かけを実施する。
　特に種無しぶどうは摘粒・摘房作業を適期に実施し終了次第できるだけ早く袋かけを行う。

２．スリップスは袋の中に侵入するので口元を止め金でしっかり固定する。また、ロート状に開いていると雨水が入る。袋はスリップス防虫処理をしてあるので１年で使いきりとする。



３．良好な房から袋かけを行い、予定の枚数が終了したら残りの房を摘房する方法がよい。

４．房の長いものは粒数が多いので、袋かけの時に再調整する。

５．昨年鳥害を受けた園は計画的に袋かけを行う。また、果実袋の上から「ぶどう用かさネット」（右の写真参照）を使用してもよい。ただしカサが小さいので日焼け防止対策も行う。

◆日焼け防止対策について

　袋かけと梅雨の中休みや梅雨明け後の高温が重なると、日焼けの発生が心配されるので、日焼け防止対策を徹底する。

１．異常高温時(気温３３℃以上)または梅雨明け直後の高温時には袋かけを実施しない。
　西日が強く当たる所、道路際・若木で棚面が明るい所などは特に注意する。

２．高温時に袋かけをする場合は、袋の上から「日焼け防止カサ紙」（新聞紙・広告など)やタイベック笠を活用する。
　ワンタッチポリ傘は、強日照に対してやや弱い。
　タイベック笠は反射率が高く温度上昇が少ない。なお固定にはホッチキスが必要。

３．特に日焼けの発生しやすい場所は必ずカサ紙を使用する。
　樹勢の弱い所、圃場外周で西日が強く当る所は特に注意する。
　午前中に袋かけを行った場合は、昼食帰宅前に傘かけを行う。お昼で日焼けする。

◆苦土欠乏対策について（種無し・種あり共通）

　枝の伸びが良い場合は、元葉の色がうすくなりやすいので施用して葉色を良くし、着色・糖度を向上さる。また、欠乏症がでやすい短梢栽培では、土壌施用だけでなく、積極的に葉面散布を実施したい。

１．土壌施用：水で分解しやすく流れやすいので、降雨後の施用とする。

施肥時期	肥　料　名	施　肥　量
７月上中旬	硫マグ２５	２袋／１０ａ当り

※葉の色が薄くなっている場合は、上記の施肥時期を待たずに実施する。

２．葉面散布：袋掛け後の第９回目以降に加用散布する。

肥料名	散布量
グリーントップ７０	500 倍（水 100ℓ 当り 200ｇ）
ビックマグ（リーフマグ）	1,000 倍（水 100ℓ 当り 100ｇ）

◆種あり巨峰の弱樹勢樹対策について（メリット赤の散布は行わない）

種ありで樹勢が弱く軸が黄変する樹にチッソの葉面散布か追肥を行う。

①アミノメリット青の葉面散布。（袋掛後）

５００倍液を７月中旬から５～７日おきに２～３回散布。

②尿素の５００倍液の葉面散布。（袋掛後）

５～７日おきに２～３回散布。

①・②ともボルドー液との混用はよいが、高温時の散布は葉やけが出やすいので注意する。

《栽培に関する問合》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816

松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合》各ＪＡファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311

◆ぶどうの管理について

１．新梢管理

品　種　名	結果枝の摘心等新梢管理の方法
種無し巨峰 （中梢剪定樹）	棚面の明るさは種ありと同様に必要。混み合った暗い部分を順次整理する。水まわり期前はいったん休止し果房全体に色がまわった頃、混んでいる場合は再度実施する。 新梢先端は水回り前（満開後３５～４０日後頃）に、基部から１.５～２ｍで摘心。先端部分のみ軽く摘心する。 遅れた場合は７月下旬から８月上旬に実施する。 副梢は、２回目のジベレリン処理以降１～２葉摘心を随時行う（水回り前は、一度に強い摘心をしない） 孫枝は基部からかき取る。
ピオーネ	満開３５～４０日後頃（７月下旬頃の果粒軟化期前）に主枝間の中央部で一律摘心
ナガノパープル	満開２０～３５日後頃に新梢葉と先端副梢葉をあわせて１５～１７枚を目安に摘心 副梢の発生旺盛なので、随時副梢や孫枝の管理（摘心）を行う
シャインマスカット	満開３０日頃（７月中旬の果粒軟化期前）までに新梢葉と先端副梢葉をあわせて１５～１７枚を目安に摘心（果粒軟化直前の強い摘心は縮果症の発生を助長） また、副梢の整理は２回目ジベ処理後にも行う。
クイーンニーナ	満開５０日頃（８月上旬）に実施（着色前） 直接日光が当たらないと着色しないタイプなので、他の品種よりも園地を明るめに管理する。 特に着色期になったら園地を明るく保つ。
クイーンルージュ®	満開後３０日頃（７月中旬の果粒軟化期前）に行う。 強い摘心は縮果症の発生を助長する。 開花時期はシャインマスカットとほぼ同時。 開花前の摘心後に発生した副梢は、着房節（4～5 節）まではかき取り、先端副梢は４枚程度、その他の副梢は２枚程度で摘心する。 園内を常に風通し良く明るく保つことが必要であり、摘心作業はこまめに行う。

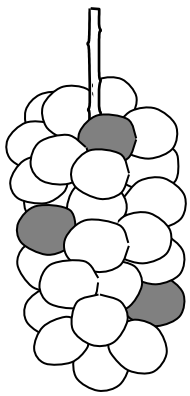
２．最終着果基準

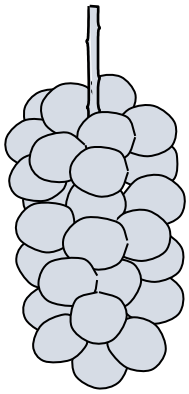
品種名等	短梢・中梢栽培				
	房粒数 (粒)	短梢 着房基準 (1m両側合計)	中梢 １坪当り 着房基準	房数 (10ａ当り)	収量　kg (10ａ当り)
無核巨峰 (中梢)	３５	―	１０～１２ 房	3,750	1,500
ピオーネ	３０	３新梢に２房 1mに６．７房	１０房以内	2,800～ 3,000	1,500
ナガノパープル	３０ 以内	４新梢に３房 1mに７．５房	１０～１２ 房	3,000	1,200
シャイン マスカット	３５ 若木 35～40	３新梢に２房 ～４新梢に３房 1mに７房前後	１０房	3,000	1,500
クイーンニーナ	２５	８新梢に５房 1mに６．２５房	８～１０房	2,400～ 2,600	1,200～ 1,300
クイーンルージュ®	３５ 大粒は30	８新梢に５房		2,400～ 2,800	1,200～ 1,400

３．見直し摘房

袋掛後であっても、着色初めの色の付き方を確認し再調整を行う。
（種なし巨峰、ピオーネ、ナガノパープル、クイーンニーナ）
園全体の房にとび玉が鮮明に出れば、適正着果量。
園全体の房がボウッと色づき、とび玉が不明瞭な場合は、着果過多 → 直ちに摘房する！
ただしクイーンルージュ®の着色は、ボウッと全体的に着色が始まり濃くなっていく。

とび玉期の見直し摘房の感度（黒色品種のみ）



あちこちの粒が
鮮明に着色
↓
適正着果量

全体にボウッと
薄く着色
↓
着果過多なので
すみやかに弱い枝を
中心に摘房する